

キャラクター名
理輝 海味(リキ カイシュウ)

プレイヤー名

シンドローム	ノイマン ノイマン	ワークス	プログラマー	カヴァー	UGNエージェント
オプション		年齢	24	性別	男
覚醒	償い	衝動	嫌悪	初期侵食率	36%
出自	[母親不在]父親	経験	[秘密]母親 ★D消去	邂逅	[母の味]七塚 恋火

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	31
肉体	0	0	1			1	行動値	11
感覚	0	0	1			1	(非装備時)	11
精神	6	0	0		3	9	戦闘移動	16
社会	2	1	0			3	全力移動	32

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	10		RC			交渉		
回避			知覚			意志	2		調達	4	
運転:自動二輪	2		芸術:			知識:ロックス/チップス	2		情報:ウェブ	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:UGN	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ショットガン(スラッグ)	射撃	1r+10	---	5		<射撃>一粒弾型ショットガン IC80
吉束散華[ガアルド]③④⑤⑥	射撃	12r+10		5+10		C8<<~59%>>
式束散華[ツウガアルド]③④⑤⑥	射撃	13r+10		5+10		C8<<60~79%>>D+1
参束散華[ライガアルド]③④⑤⑥	射撃	14r+10		5+10		C8<<80~99%>>D+2

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ:UGN幹部	
コネ:ウェブ	
応急手当キット	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
No.05 実験体/ロスケバ	P 上級	N 36		
[父親]理輝 絵(リキ カイ)	P 尊敬	N ●不安		
[母の味]七塚 恋火	P ●幸福感	N 疎外感		
[シナリオ]チップスという人物	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 14 残り財産P: 2

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
①戦術	2	6	セットアップ	視界	シーン(選)	AUTO	---	
効果: R中対象メジャーアクションD+LV、自身対象不可								
②天性のひらめき	2	4	メジャー	---	---	---	---	
効果: 戦闘時以外の全能力値判定及び技能判定に使用可能、判定C値-LV(下限7)								
③コントロールソート	1	2	メジャー	武器	---	対決	---	
効果: 選<射撃>組合判定【精神】で判定								
④コンソルト<ノイマン>	2	2	メジャー	---	---	---	---	
効果: <シンドローム>C値-LV(下限7)								
⑤コンバットシステム	2	3	メジャー	武器	---	対決	---	
効果: 選<射撃>組合判定D+[LV+1]								
⑥急所狙い	5	2	メジャー	武器	---	対決	---	
効果: <射撃><白兵>組合ATK+[LV*2]								
⑦究極鑑定	1	---	メジャー	至近	効果参照	AUTO	---	
効果: GM任意<知識>未知アイテム1つを分析: 来歴、作成方法、使い道を導き出す(実際に作成・操作出来るようになる訳ではない)								
⑧構造看破	1	---	メジャー	至近	効果参照	AUTO	---	
効果: GM任意<知識>人工的機械や構造を見た瞬間に解析								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

【キーワード】
震ヶ原支店/カフェ(本と雨宿り) 技術開発班班長(自称) ロックス携帯化 七塚惣次(支部長) 七塚恋火(店長)
システム担当 俺/僕 カレーライス 紅茶 雨が嫌い 知識は努力 負けず嫌い 運動は普通
=====

チップス「Pro.パン オ疲れ様です。」海味「…俺はパンじゃないよ、チップス。」
チップス「失礼しました。Pro.カイ オ疲れ様です。」海味「…よろしく、チップス。」

▼幼少期
母は海味が生まれてすぐになくなった。
貧しい生活ではあったが、愛情は沢山注がれていた。
けれどそれ以上に、自身の存在が与える父への負担に、罪悪感(申し訳なさ)を感じていた。
男手一つで育ててくれたそんな父親も、海味が中学に上がる直前に死んだ。

父親の死の直後、当てもなくフラフラと街を彷徨っていた海味は、誰かに路地裏に連れ込まれる女性を見つける。
街の暗闇へと吸い込まれる直前、その女性と目が合った。
—助けて。 そう言われた気がした。

周囲に気を付けながら、静かに暗闇の路地へと入り込む。
そこで見つけたのは、今まさに襲われかけているあの女性と、彼女に襲い掛かる異形の怪物だった。
思わず声が漏れる。その声に気付いた怪物がぐるりと顔を向けた。
妹んだ脚は言うことを聞かない。
次の瞬間、怪物の一閃で海味の上半身は宙に舞った。激痛で叫ぼうとした海味の心臓に、怪物の拳が深く沈む。